

いまこそ私たちが読むべき本。待望の復刊！



水車小屋のウィル  
ロバート・ルイス・スティーヴンソン  
有吉新吾 訳

『宝島』『ジキル博士とハイド氏』の作者スティーヴンソンが、  
故郷スコットランドの山峡を舞台にした不朽の名作。  
世代をこえる人生哲学。  
いま、私たちが読むべき本。

堀江敏幸〔解説〕

ウィルの「素朴な人生哲学」は、ひとりの人間が生き、  
そして死ぬことの意味を、深く考えさせてくれる。  
〔解説「深い、生き生きとした夢の中で」より〕

解説者：堀江敏幸（本誌11月号）

# 水車小屋のウィル **新装版**

R.L. スティーヴンソン 著

堀江敏幸 解説 有吉新吾 訳

小説家・早稲田大学文学学術院教授

## 深い、生き生きとした夢の中で

ウィルの「素朴な人生哲学」は、ひとりの人間が生き、そして死ぬことの意味を、深く考えさせてくれる。若い日に出会った英国十九世紀に英語で書かれた短篇小説の香気を味わい直すために、自分の手で日本語に移そうと試みた有吉氏の姿勢に感銘を受ける。そればかりではない。「春を待たずに逝った老妻に手向ける」と扉の献辞にあるとおり、本書はその喜びを共有してくれるであろう妻の命を少しでも長くこの世に引き留めるために、いわば渾身の力でなした魂の写経であり、翻訳がそのまま鎮魂歌となった美しい事例として、読者の胸に残り続けるだろう。

本書解説文より抜粋

【発売】 令和6年5月15日予定  
【仕様】 四六版上製 / 本文 88 頁  
【価格】 定価（本体 1,500 円＋税）  
ISBN978-4-88866-691-6 C0097 ¥1500E

スコットランドの山峡から届いた不朽の名作  
『宝島』『ジキル博士とハイド氏』の作者スティーヴンソンが  
幼少時代・恋情と死を題材に、「人間の真の仕合せ」をこの短編に込める。

ロンドンがスモッグにおおわれていた頃。失業者とストリートチルドレンがあらわれた頃。  
「おカネの正体」を見きわめようと、貧乏のどん底のカール・マルクスが頑張っていた頃。  
スティーヴンソンはこの小さな物語を著した。

\*

二つの戦争の世紀をまたいでも、国家は戦をやめない。  
貧困はさらに深刻になり、ごく少数の資本家は富を増す。  
スティーヴンソンは 21 世紀の現在を見澄ましたように、  
主人公ウィルの生涯に託して、資本主義の世紀への警鐘を鳴らす。

FAX でのご注文

03-3262-4643

西田書店

東京都千代田区神田神保町 2-10-31 IW ビル 4F  
Tel: 03-3261-4509

書店名  
(番線)

新刊

## 水車小屋のウィル **新装版**

R.L. スティーヴンソン 著 / 有吉新吾 訳 / 堀江敏幸 解説

■四六版上製 88 頁 / 定価（本体 1,500 円＋税）■ISBN978-4-88866-691-6

ご注文数

冊